

第3章

計画がめざす環境像

本章では、計画がめざす環境像として「めざすべき環境像」及び「6つのまちの姿」を示します。

第3章 計画がめざす環境像

1 基本構想におけるまちづくりの基本目標

少子高齢社会の到来等を受けた転換期を迎え、社会環境などが大きく変化していく中で、持続型社会の実現が求められています。

一方、地方分権の一定の進展を受け、地域の個性を活かしたまちづくりを進めていくために、様々な主体による協働のまちづくりを進めることが大切になります。

こうした中、本市の基本構想では、これらの課題を踏まえ、「活力とうるおいのあるまちをどのように育て、運営していくか」という視点から、本市の新たな時代に向けたまちづくりの基本目標を『誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき』をめざして』としています。

また、「環境を守り自然と調和したまちづくり」をはじめとした7つの基本政策を掲げ、基本目標の達成に向け、取組を進めることとしています。

2 めざすべき環境像

川崎市基本構想における基本目標及び基本政策、環境の現況を踏まえ、本計画がめざす本市の「めざすべき環境像」を次のとおりとします。

環境を守り 自然と調和した 活気あふれる 持続可能な市民都市 かわさき

私たちは、大気、緑、水、土壌、資源など、様々な自然の恵みから成る環境の中に生きています。これらの恵みは、循環や再生を繰り返しながら、私たちの命を支え続けていますが、有限なものでもあります。環境を守る、すなわち健全な自然の営みを持続させ、有限な資源を保全するとともに新たに創造していくことが、私たちの健康や生命を守るためには不可欠です。そのためには、私たち人間の活動は、地球や地域にとっての許容範囲を超える環境負荷を与えないとともに、自然と調和したものでなくてはなりません。

かつて公害問題が発生した時代に、本市は全力をあげて問題解決に取り組み、地域の環境は改善に向かってきました。しかし、私たちは今もなお、様々な環境問題を抱えています。自動車排出ガスによる大気汚染、樹林地や農地の減少、廃棄物の増大といった地域の問題や、地球温暖化や資源・エネルギー問題といった地球規模の問題をみると、私たちは、環境保全に対する認識を十分にもって行動してきたとは言えません。これら様々な問題が重なり合って環境に過大な負荷を与え、環境と人間社会の持続可能性が危ぶまれる状態に至っており、私たちは早急に、これまでの社会のあり方を改め、環境と人間の持続可能性を最優先に考える社会に転換させなくてはなりません。

こうしたことから、本市は、地球や地域の環境が保全され、様々な資源や自然界全体の健全な循環が確保され、良好な環境が持続可能になるとともに、それを基盤として、人が健康で快適に暮らし続けることができる「持続可能な市民都市」をめざします。

また、「持続可能な市民都市」を実現するためには、経済や社会が健全で活力があり、環境問題

を解決する新たな技術を生み出し続ける力を持っていることも必要です。

さらに、すべての主体が日常生活や事業活動において自主的・積極的に環境配慮や環境保全に取り組むことが求められます。

本市は、多摩川や多摩丘陵という自然環境を抱える地域特性であるとともに、全国でも有数の産業や人口が集積する都市であり、今後も成長が見込まれています。これからも、環境に高い価値を認めその保全に努めながら、人と自然と産業とが共生する、川崎らしさのある「持続可能な市民都市」をめざします。

また、「めざすべき環境像」の実現を図るためのより具体的な像として、「6つのまちの姿」を示します。「6つのまちの姿」は、その実現に向けたそれぞれの取組を通して、一体となって「めざすべき環境像」の実現を支えます。

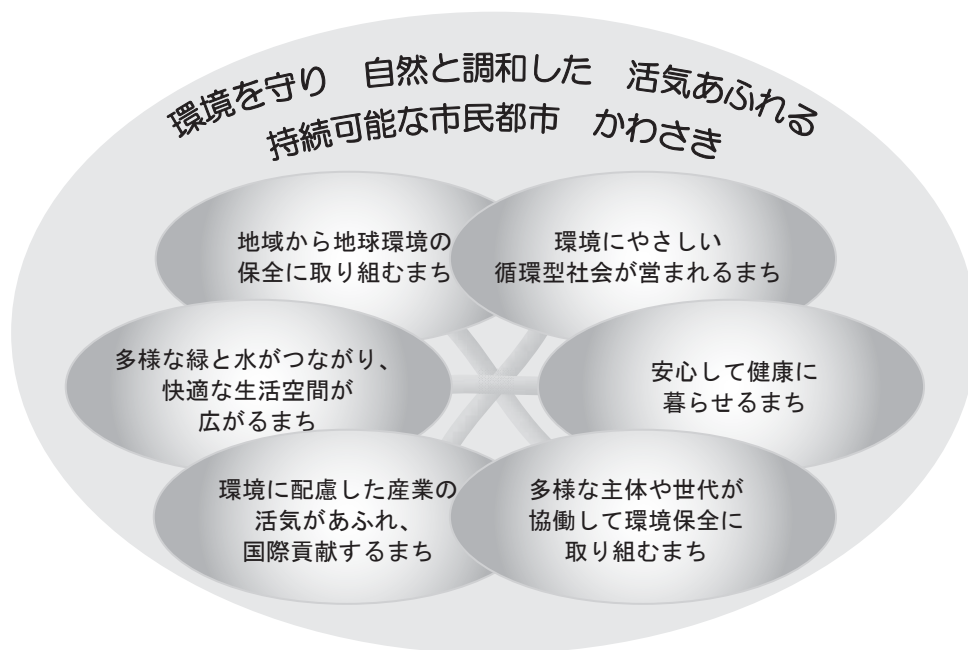


図 3-1 めざすべき環境像と6つのまちの姿

3 めざすべき環境像の実現に向けた6つのまちの姿

「めざすべき環境像」の実現に向けて一体となって取組を進める「6つのまちの姿」について、それぞれがめざす具体的なまちの姿を示します。

環境を守り 自然と調和した 活気あふれる
持続可能な市民都市 かわさき

地域から地球環境の保全に 取り組むまち

気候変動による悪影響を及ぼさない水準で温室効果ガス濃度が安定し、オゾン層破壊や酸性雨をはじめとした様々な地球規模の問題が解決に向かい、地球環境が保全されています。エネルギーの効率的な利用や再生可能エネルギー源の導入、環境に配慮した交通体系やまちの整備が進み、都市気温の上昇も抑制されて、地域の環境や社会も、利便性や活気にあふれながら、持続可能なものとなっています。

多様な緑と水がつながり、 快適な生活空間が広がるまち

多様な緑と水のつながりが市域全体に広がり、豊かな水辺や水循環が保たれて、まちと自然が共生し、その自然の恵みを人を含む生物が享受しています。すぐれた景観や利用者にやさしい都市施設など、良好な都市アメニティが得られ、快適な暮らしが実現しています。

環境に配慮した産業の活気があふれ、 国際貢献するまち

全国でも有数の産業集積を形成する本市において、環境に配慮し環境負荷を最小化した先進的な産業活動や川崎発の環境保全技術、また、これらに基づいた環境産業の振興や海外への技術移転などにより、まちに良好な環境と活気をもたらされ、国際的な環境保全にも貢献しています。

環境にやさしい循環型社会が 営まれるまち

環境負荷の低減につながる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組が各主体により行われていることで、天然資源の消費が抑制されています。また、廃棄物が適正に処理されるとともに、資源化などの先進的な環境技術の導入が進んだ、環境にやさしい循環型社会が営まれています。

安心して健康に暮らせるまち

都市の成長が続く本市で、都市をとりまく大気や水、土壌のきれいさや安全性を守り、化学物質の環境リスクの低減を図り、騒音・振動、悪臭、建造物影響などの問題解決を図ることによって、安心して健康に暮らせる都市が実現されています。

多様な主体や世代が協働して 環境保全に取り組むまち

市民や事業者など多様な主体や世代が、良好な環境の大切さを学び、その価値を認め、環境の恵みを享受しながら、協働して環境の保全及び創造に取り組み、次世代に積極的に継承しています。